

『平和』をつくる

聖句「平和を実現する人は幸いである。その人たちは、神の子と呼ばれる。」  
—マタイによる福音書5章9節

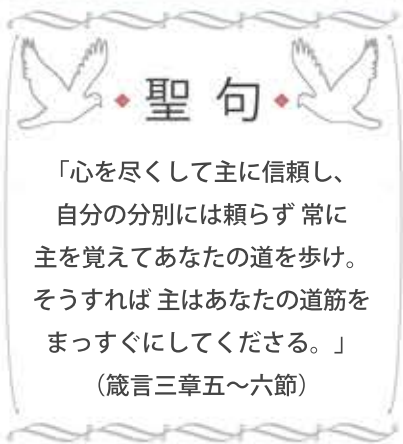


「主に信頼し、委ね祈りつつ」

浅野記念御濠端幼稚園

園長 島田 美緒

浅野記念御濠端幼稚園は、その名の通り、小田原城のお濠の端にあり、主任時代、前園長から次期園長のお話があった時、あまりの責任の大きさに一度は辞退したものの、「他の人が来て、今までの保育が出来なくなってもいいの？」と問われ、「今までの保育をしていきたい」と思いました。そして「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うるたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」(ヨシヤ記一章九節)とのみ言葉が思



「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。」  
(箴言三章五～六節)

部会だより

キリスト教 保育連盟 神奈川部会  
2015年8月18日 第128号

新人研修で感じたこと

本牧めぐみ幼稚園 岡野 恭子

私はキリスト教の保育園に通っていましたが、当時は宗教など気にしておらず、園生活の記憶もあいまいなため、キリスト教の園の雰囲気や想像でできません。しかし、幼稚園に入職してすぐにキリスト教保育を実感しました。それは、お祈りの時間です。お祈りをする、自然と日々感謝し、前向きな気持ちを持つことに気付きました。今回の新任研修でも、同じ志を持った仲間とお祈りをする事で、より一層気持ちが高まりました。

研修は温かく、家庭的な雰囲気でした。ベテランの先生の、今でも反省ばかりであるという話が耳に残っています。慣れない保育現場で過ごす中で、一年目は失敗して当たり前と分かっていても、自分を責めてしまうこともありました。しかし、この言葉を聞き、どのような先生でも毎日反省をし、次に活かしていることを知り、励まされました。

研修で紹介していただいたパンの手遊びも、私を勇気づけてくれました。私は当初、子どもが落ち着いて話を聞くことができる方法を探していました。パンの手遊びを知り、これなら子どもたちが楽しみながら静かな雰囲気を作ることができ、かもしれないと思いました。実際に試してみると、予想通り子どもたちは自然と静かになりました。さらに、この手遊びをきっかけに、手遊びを通して子ども一人一人とコミュニケーションを取ることも良きにも気付きました。今ではこのパンの手遊びは子どものお気に入りとなっています。今後

も新任研修で学んだことを忘れずに、子どもたちと共に成長していきたいと思えます。

役員会報告

書記 奈良昌人

役員会は四月七日(火)、五月十二日(火)、六月十六日(火)に高座みどり幼稚園にて開催されました。主なことを報告いたします。

◆二〇一五年度総会議事録の承認

四月十四日(火)に高座みどり幼稚園(カンパウンド)長老教会高座教会礼拝堂にて開催された二〇一五年度総会議事録を承認しました。

【役員紹介】

部会長・鈴木裕美先生/高座みどり幼稚園 副部会長・森田裕明先生/横浜本牧教会附属早苗幼稚園、副部会長・清水臣先生/戸塚ルーテル教会附属幼稚園、書記・島田美緒先生/浅野記念御濠端幼稚園、奈良昌人先生/野毛山幼稚園、会計・加部公子先生/鶴沼めぐみルーテル幼稚園、会計・田名網仁先生/希望が丘教会附属めぐみ幼稚園、主任会・半澤納帆先生/田園江田幼稚園、平幸子先生/関東学院のびのび園、監事・小高千恵先生/関東学院のびのび園、寺田千栄先生/認定こども園捜真幼稚園

◆新任歓迎会

四月二十二日(水)野毛山幼稚園(野毛山キリストの教会礼拝堂)にて行なわれま

教団伊勢原教会より説教をいただき、礼拝の後、岡田直美先生(横浜英和幼稚園)から新任の皆さんへ歓迎と励ましのメッセージがありました。百二十七人参加。

◆第一回講演会

六月三日(水)に野毛山キリストの教会礼拝堂にて、リンゴの木代表 柴田愛子先生より「ひとりひとりを大切にする保育」のテーマでお話を伺い、子どもをありのままに受容することの大切さを示され、保育を見直す良い機会となりました。百二十五人参加。なお、第二回講演会は講師に宮里暁美先生(文学部女子大学)をお招きし、十一月十八日(水)午後三時三十分より野毛山キリストの教会礼拝堂にて開催。

◆新任教師研修会

七月一日(水)、十月二十一日(水)、一月二十日(水)に横浜英和幼稚園にて午後三時より開催。

◆夏期講習会

八月十八日(火)関東学院大学金沢八景キャンパスにて開催されます。基調講演・島田勝彦先生(日本基督教団中野教会牧師 中野教会付属徳育幼稚園園長)前キリスト教保育連盟神奈川部会部長、午後は陣内大蔵先生(日本基督教団東美教会牧師、シンガーソングライター、音楽プロデューサー)

い出され、「主が共にいてくださるのだから、委ねて歩もう」と心を決めたことは、つい、この間のことのように思い出されます。思いを一つにして保育の業を担ってくれる保育者にも恵まれ、感謝のうちに歩んでおります。

しかし、この三年での園児数の減少は大きく、この先もこの地において必要とされる幼稚園として存続していくことが出来るよう、考える一年となりました。保護者へのアンケート調査や座談会を通して思いを聴き、共に考える機会が与えられました。「今」の幼稚園を愛して下さる保護者の方々から、温かく前向きなご意見やこの点は改善したらよいのではないかとのご意見をいただきました。神奈川部会の先生方とお話をする機会があり、励ましや、アドバイスを頂き感謝いたします。職員会議を重ね、出来ることから始めようと、新たな一歩を歩み始めました。これで良いのか、良かったのかと思ひ悩むこともあります。年度当初、次の祈りをもって歩んでい

るお話を続けて伺い励まされました。ライオンホール・ニーバーの祈り『神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気を与えらなさい。変えることのできないものについては、それをう

編集後記  
今回の特集は、「我が園の防犯対策」です。それぞれの園での様子や思い、願いがあり、また、先生方の良きお働きの中に、毎日の保育があることを改めて感じる事が出来ました。お忙しい中、原稿をお寄せくださいました各園の先生方、ありがとうございました。



◇発行日 2015年8月18日  
◇編集者 神奈川部会 広報担当 宮の台幼稚園/佐口千春 認定こども園 捜真幼稚園/黒坂綾子  
◇デザイン 永野絵理世  
◇イラスト提供 百合丘めぐみ幼稚園



イラスト：魚釣り(5歳女児)



# 防犯対策



## 我が園の防犯対策

金沢キリスト教会

附属よろこび園

主任 セルバトナム 雅子

よろこび園では、防犯対策を保育の中に取り入れています。保育者は事前に園児たちに、万が一、不審者が侵入した場合鍵のかかる園長室に避難するように伝えていきます。防犯訓練の日は一人の保育者が不審者に変身。帽子やサングラスをかけ、園に現れます。保育者が子ども達に大声で「逃げて!」と指示を出します。一人の保育者が不審者に対応中、もう一人の保育者の誘導で園児たちを園長室に導きます。子ども達を安全な場所に避難させたら、保育者が園

長室に鍵をかけ、園用の携帯電話で警察に通報します。「ドキドキするね」「静かに」「早く隠れて」など、子ども達から真剣な話し声も聞こえます。しかし、子どもの中には防犯訓練と知っていてかくれんぼ感覚になつてしまう園児もいます。「楽しいね」とワイワイ状態になるときもあります。上手に避難することは出来るのですが訓練はあくまでも訓練であつて、実際の事件につながるような安全面にさらに配慮していきたいです。



## 不審者対策について

藤沢教会附属みくに幼稚園

園長 國尾雪

当園の防災訓練は、毎月1回地震(津波を含む)・火事・不審者対策を交互に行っているため、子ども達が園に不審者が現れたとき、実際のどのよう避難するかをやってみるのは、年に2〜3回程度です。

園の環境としては駅に近く、周りにお酒を含む飲食店も多く、稀に朝酔った方が教会入り口付近で寝ていることもあり、創立八一年目で昔は畑や空地に囲まれていた静けさは程遠く、まるで絵本の「ちいさいおうち」のように都会に取り残されています。

そのような中、防犯カメラを4台設置し、事務所と牧師室のモニターで確認(録画付)、セコムとも契約し、警察官立寄所の看板も付けています。子ども達の訓練は、不審者が侵入する場所を想定し、二箇所の避難場所を伝えていきます。園庭側から不審者が現れた場合には「緑のランプ(避難灯の色)2Fに行きますよ」を肉声

で伝え回り、防火扉が厚く頑丈な鍵が付いている礼拝堂に避難し、正面側から現れた時には、「緑のランプ外に行きますよ」で園庭で集合点呼した後、近くの公園に避難することにしていきます。通報その他については、安全管理マニュアルに則り練習をします。避難時にはとにかく不審者の気持ちを煽らないよう近くにいた保育者の話をよく聴いて静かに行動すること、咄嗟の折に逃げ遅れないためにも幼稚園のなかでも「行つてはいけない所」には行かないよう伝えていきます。以前、猿の着ぐるみを使う県の防犯出張講座を利用したこともあり、園外保育や長期休み前には「外では絶対一人にならない」等の約束を伝え続けています。



## 防犯と防災のはざま

川崎頌和幼稚園

園長 滝澤貢

JR川崎駅から徒歩一〇分程度、繁華街を通って大きなお寺とそのお墓が見えてきたら、そこが我が幼稚園です。ちょうど幼稚園の表側が繁華街側、園庭側からようやく人の住む街並みになります。また、面している二つの道路はどちらも一方通行ですが交通量が多く、特に歩道のない西側の道路は抜け道として多くの車が行き交います。

こういう立地環境ですので、防犯のために出入り口にあたる四箇所は厳重にロックされています。テレビモニター付きのインターホンで来客も保護者も対応することになりますし、警備会社との契約や、緊急通報システムなどは必備かもしれません。しかし、大きな問題もあります。昨年火災を想定した避難訓練を行った際に川崎消防署の署員の方々とお茶を飲みながら雑談する中で、「園長、防犯と防災は真逆の思想ですよ」と教えられました。防犯は外から入



りにくいことが重要でしょう。一方防災は逃げやすいこと、救助が得られやすいことが重要です。いきおい厳重なロックはいざというときに困難を生みます。三・一一を経験した者としては、防犯と防災とのバランスに頭を悩ませています。また、キリスト教は基本的に人間の善性を信じて成り立つものではないかと思えます。子どもたちに「人を見たら泥棒と思え」とは語りにくい。牧師・園長としては悩みどころです。というわけで、キ保連神奈川県だよりのテーマが「防犯対策」であることは、わたしとしてはかなりの驚きであり、抵抗も覚えますが、ひよつとして同じような悩みを抱えている園もあるかと思ひ、現状を報告させていただきました。

## 我が園の防犯対策

希望が丘教会

附属めぐみ幼児園

主任 佐藤理恵子

私たちの園は教会付属であり、その上教会と敷地、建物を共有しております。そのため地域に開かれているという教会の性質上、日曜日だけでなく平日も様々な方々の出入りが頻繁であり、園独自の防犯体制がとりにくいという現状があります。

その中で、何とか園児の安全を守りたいという事で色々な工夫をしております。例えば門扉に備え付けの開閉取っ手の他に上方に簡易鍵をつけています。この仕組みを知っている人はもちろん簡単に開けられるのですが、不審者が侵入しようとした場合に一つの歯止めになります。

また日頃の防災訓練の中に、火災火事と共に不審者対策を加え、特に自由遊びの際、不審者が侵入して来た時を想定して、教師の合図で静かに、騒がず保育室内に避難する練習を重点的に行っています。教師も速やかな施錠(保育室だけでなく教会

入り口等)や、牧師への連絡、教会内でサークル活動等を行っている保護者への連絡、警察への通報練習を教会の事務職員と協力して行う訓練をしています。その上で、もし不審者が入り口を突破して建物の中に侵入した場合を想定して教師は携帯型の不審者対策用の刺激スプレーや小型の消火器を保育室に常備して、女性であつても、万一の場合子どもたちを守るような心構えをしています。また、保育室から安全な場所へ避難する練習も年度の後半には加えるようにしています。

限られた条件の中ではありませんが子どもたちの安全を出来る限り守って行けるようこれからも努力していきたいと考えています。

